ピクシープリンセスとラシンティランテの1点

何度も書いてきているが、日本経済は衰退したが、日本競馬は世界トップランク（いやナンバーワンかもしれない）を維持している。だから、フランスのド田舎G1の凱旋門賞に遠征するのは時間のムダだし、米国ブリダーズカップも行ってもそれほど意味はない。小回りサンタアニタでそんなに勝ちたいのか？

。とっていたら、トレイルブレイザーズはやはり4着だった。あのコースは先に抜け出したもの勝ちだ。

最悪なのは競馬マスコミで、海外G1で勝つのを、いまだに「悲願」だと思い込んでいる。30年前の発想で、日本の競馬記者は「脳内汚染」されているとしか言いようがない。パリ、ロサンゼルス、ドバイなどに、半分遊び感覚で取材に行き、向こうのろくでもない競馬サークルにちょっとでも褒められると有頂天で記事を書く。もう、こういうことはいい加減にしてほしい。

。

さて、ジェンティルドンナがジャパンカップに出走するため不在。それに外国馬の参戦もない。となると、3冠レースですべて2着のヴィルシーナが勝って当たり前と、誰もが思う。

そうすると、相手はやはり古馬。フミノイマージンは、8月の札幌記念で牡馬を抑えて勝っている。6歳の年齢は気になるが、重賞4勝の実績は断然だ。次は、5月のヴィクトリアマイルでGIを初制覇したホエールキャプチャか、それとも、10月の府中牝馬ステークスを勝ったマイネイサベル。そうだ、スマートシルエット、レインボーダリアなんてところも怖い。

というのが、「脳内汚染」競馬記者と、自分で考えない競馬ファンの結論だろう。はっきり言って、このような考え方を「脳内革命」しないと、馬券は当たっても、ギャンブルの勝者にはなれないし、単に「一ファン」として一生お金を払い続け、その結果、「競馬は素晴らしい」などという「洗脳状態」で死を迎えることになる。

どうやら、「年内解散」がありそうな雰囲気になってきた。総選挙は12月16日になるらしい。もちろん、こんなことはエリザベス女王杯になんの関係もないが、今年の6月に、エリザベス女王の即位60周年式典があったことを忘れた人も多いのでは。あのときは、記念のコンサートがロンドンのバッキンガム宮殿前で行われ、ポール・マッカートニー、エルトン・ジョン、スティーヴィー・ワンダーらが出演した。

というわけで、枠では60周年の6枠が鉄板だ。なんと、ここにヴィルシーナとホエールキャプチャが入ってしまった。6-6までである。今回のエ女王杯は11月11日11レースなので、馬番11番のホエールキャプチャは激走するとも言われている。

しかし、私が買うのは、ピクシープリンセスとラシンティランテの馬連1点のみ。理由は、外国人騎手が乗ることだけ。デムーロ、ルメールの1点勝負というわけ。しかし、英国女王の冠レースに、イタリア人騎手、フランス人騎手の1点でいいのかという、指摘もある。

第37回エリザベス女王杯(3歳上・牝・GI・芝2200m)

- 1-01 マイネイサベル (牝4、松岡正海・水野貴広)
- 1-02 アカンサス。
(牝4、三浦皇成・畠山吉宏)
- 2-03
スマートシルエット。 (牝5、岩田康誠・大久保龍志)
- 2-04 メルヴェイユドール。 (牝5、酒井
学・牧田和弥)
- 3-05 マイネジャンヌ (牝4、幸
英明・清水久詞)
- 3-06 ピクシープリンセス。 (牝4、M.テムロ
・野中賢二)
- 4-07 フミノイマージン
(牝6、太宰啓介・本田優)
- 4-08 レジェンドブルー。
(牝6、藤岡佑介・宮徹)
- 5-09 クリスマスキャロル。
(牝5、秋山真一郎・石坂正)
- 5-10 オールザットジャズ。
(牝4、川田将雅・角居勝彦)
- 6-11
ホエールキャプチャ。 (牝4、横山典弘・田中清隆)

6-12 ヴィルシーナ

(牝3、内田博幸・友道康夫)

7-13

エリンコート

(牝4、池添謙一・笹田和秀)

7-14 マイネオーチャード

(牝4、柴田大知・畠山吉宏)

8-15 レインボーダリア

(牝5、柴田善臣・二ノ宮敬宇)

8-16 ラシンティランテ

(牝3、C.ルメール・友道康夫)